

2014年12月4日

株式会社 富士キメラ総研  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 12-5 小伝馬町YSビル  
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414  
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
<http://www.fcr.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## LCDやOLED...その関連部材など ディスプレイ関連の世界市場を調査

2019年世界市場予測(13年比)

NearEye用マイクロディスプレイは611億円(6.4倍) スマートグラス向けが市場拡大をけん引  
 電子ペーパーは1,294億円(2.1倍) 高コントラスト・低消費電力で電子棚札需要が急増  
 メタルメッシュフィルム、Agナノワイヤフィルムなど、ITO代替フィルムの採用が拡大

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、2014年6月から10月にかけて、世界市場を対象にディスプレイとタッチパネル、それらのアプリケーション、さらに関連部品・材料市場まで網羅する調査を実施した。

その結果を報告書「2014 ディスプレイ関連市場の現状と将来展望 上巻、下巻」にまとめた。この報告書は、上巻ではディスプレイとそのアプリケーション、そして部材市場を、下巻ではタッチパネルとそのアプリケーション市場、タッチパネルメーカー事業戦略を分析した。さらに各巻では注目される業界動向をまとめた。

### <調査結果の概要>

#### ディスプレイの世界市場

	2014年見込	13年比	2019年予測	13年比
LCD	10兆5,285億円	102.6%	12兆1,944億円	118.8%
OLED	8,304億円	87.3%	1兆7,301億円	182.0%
VFD	243億円	91.7%	117億円	44.2%
電子ペーパー	769億円	121.9%	1,294億円	2.1倍
NearEye用マイクロディスプレイ	90億円	93.8%	611億円	6.4倍
合計	11兆4,691億円	101.4%	14兆1,267億円	124.9%

2014年の市場は、依然としてスマートフォン、車載向けが好調で、そのほかのアプリケーション向けは低調であったが、全体としては、前年比1.4%増の11兆4,691億円が見込まれる。特に、法規制等で需要が拡大している車載ディスプレイ向けが市場のけん引役となっている。また、スマートウォッチ、スマートグラスの量産化で需要が増加し、市場はさらに拡大するとみられ、2019年には14兆1,267億円が予測される。

#### LCD

2014年の市場は前年比2.6%増の10兆5,285億円が見込まれる。TFTはTVとスマートフォン向けパネルで大型化と高精細化が進んでおり、市場をけん引している。また、TN/VAは車載ディスプレイ向けや産業機器向けで堅調な需要が続いている。

#### OLED

2014年の市場は8,304億円が見込まれる。TV向けは、2014年にLCD4Kパネルの低価格化が進んだため、本格化は遅れるとみられる。スマートフォン向けは、ハイエンド機種での採用が鈍化しており、ミドルレンジ、ローエンドへの展開が進んでいる。また、スマートウォッチ向けでプラスチック基板を使用したAMOLEDの採用が進んでいる。

#### 電子ペーパー

2014年の市場は前年比21.9%増の769億円が見込まれる。2011年まで市場をけん引してきた電子書籍リーダー向けは、2012年に減少し、その後増加に戻るがその伸びは緩やかである。一方、電子棚札向けの需要が急増している。その他、医療・ヘルスケア機器や物流管理システム向けなどでも需要拡大が期待さ

れる。

#### NearEye用マイクロディスプレイ

電子ビューファインダー(EVF)向けを中心に市場が形成されたが2012年以降減少している。2013年にはミラーレス一眼カメラなどのハイエンド機種での採用は増加したものの、EVF向けの減少が続いており、2014年の市場は縮小が見込まれる。しかし、スマートグラス、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)向けは、数量は少ないものの、参入メーカーが増加し、さらに今後「Google Glass」(Google)の量産化によって市場は拡大が期待され、2019年には2013年比6.4倍が予測される。

#### ディスプレイ関連部材の世界市場

	2014年見込	13年比	2019年予測	13年比
LCD関連部材	5兆1,901億円	102.0%	5兆7,292億円	112.5%
OLED関連部材	686億円	111.9%	2,158億円	3.5倍
その他ディスプレイ関連部材	1,222億円	105.3%	1,229億円	105.9%
合計	5兆3,810億円	102.1%	6兆679億円	115.2%

2013年はLCD、OLEDともにパネルサイズアップに伴い数量ベースで拡大したため、関連部材の市場も多くの品目で順調に拡大した。しかし、ガラス基板、表面処理フィルムなど単価下落が大幅に進んだ品目はマイナスとなった。

2014年はこれまで材料市場の拡大を支えてきたTVやタブレット向けTFTの伸びが鈍化しており、LCD関連部材の成長は緩やかになるとみられる。また、OLED関連部材もスマートフォン向けAMOLEDの成長鈍化によって伸びが鈍ることから、市場は前年比2.1%増の5兆3,810億円と見込まれる。しかし、2016年以降はTVやタブレット向けAMOLEDの生産が本格化するとみられ、市場の拡大をけん引すると考えられる。

#### <注目される業界動向>

##### 超低消費電力ディスプレイ

MEMSディスプレイ、反射型液晶、電子ペーパーがあげられる。MEMSディスプレイは、消費電力がLCDの半分以下の上に色再現性が高い特徴がある。そのため、タブレットへの採用が期待されるほか、2014年にはスマートウォッチに採用されている。反射型液晶は、バックライトの代わりに外光を反射し、液晶とカラーフィルターで色を再現することで低消費電力が可能であり、2014年に量産化が始まっている。

##### ITO代替フィルム

	2014年見込	13年比	2019年予測	13年比
メタルメッシュフィルム	87億円	122.5%	365億円	5.1倍
Agナノワイヤフィルム	9億円	112.5%	57億円	7.1倍

ITO代替フィルムとして注目されている透明導電性フィルムは、メタルメッシュフィルム、Agナノワイヤフィルムなどがあげられる。

メタルメッシュフィルムは、低抵抗値が特徴であり、大型サイズのタッチパネルでも高いタッチ性能が得られる。14インチ以上のPCモニター、さらに大型のサイネージなどでも採用されている。今後の視認性改善が進むことで要求が厳しいスマートフォンやタブレットでの採用も可能になり、市場が拡大すると予想される。

Agナノワイヤフィルムも低抵抗値が特徴であるが、メタルメッシュフィルムの低価格化が進んだため、メタルメッシュよりも光学性能が優れる点を生かしたミドルレンジ以上の中型サイズ機種への採用や狭額縁化な点を生かした採用が進むとみられる。

< 調査対象 >

(上巻 ディスプレイ/アプリケーション/部材編)

ディスプレイデバイス	大型TFT、中小型TFT、TN/VA/STN、大型AMOLED、中小型AMOLED、PMOLED、VFD、電子ペーパー、NearEye用マイクロディスプレイ	
アプリケーション機器	TV、PCモニター、ノートPC、タブレット、スマートフォン、フィーチャーフォン、電子書籍リーダー、携帯ゲーム機、DSC、スマートウォッチ、スマートグラス、車載ディスプレイ、アミューズメント機器、パブリック/サイネージモニター、医療用モニター、その他民生機器、産業用・汎用ディスプレイ	
部材	LCD関連部材	ガラス基板、フォトレジスト、カラーフィルター、カラーレジスト、ブラックレジスト、配向膜材料、液晶材料、シール剤、偏光板、偏光板保護フィルム、表面処理フィルム、中小型バックライトユニット、バックライト用光学フィルム、拡散シート、拡散板/導光板材料(シート)、導光板材料(ペレット)
	OLED関連部材	円偏光板、低分子発光材料(EML)、正孔注入材料(HIL)、正孔輸送材料(HTL)、電子輸送材料(ETL)、高分子発光材料、封止用シール剤
	その他ディスプレイ関連部材	透明電極用ターゲット材、メタル系ターゲット材

(下巻 タッチパネル/アプリケーション/タッチパネルメーカー事業戦略分析編)

タッチパネル	静電容量式、抵抗膜式	
アプリケーション機器	スマートフォン、タブレット、ノートPC、PCモニター、車載用タッチパネル、パブリック/デジタルサイネージモニター、産業用/業務用機器、その他民生機器	
部品材料装置	部品材料	カバーガラス/カバー樹脂、センサー用ガラス基板、ハードコートフィルム/IMフィルム、インデックスマッチングコート材、透明導電性フィルム、光学透明粘着剤(シート/OCA)、光学透明粘着剤(樹脂/OCR)、静電容量式コントローラーIC、引出し電極用ターゲット材、導電性Agペースト
	装置	貼合装置、露光装置
タッチパネルメーカー事業戦略	アルプス電気、大日本印刷、富士通コンポーネント、グンゼ、ジャパンディスプレイ、日本航空電子工業、日本写真印刷、パナソニック、翔栄、SMK、凸版印刷、AUO、EELY-ECW、ELK、GIS、Laibao、O-Film、Samsung Display、TPK、Young Fast	
静容量式コントローラーICメーカー事業戦略	Cypress Semiconductors、FocalTech Systems、Synaptics	

< 調査方法 >

富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査・分析

< 調査期間 >

上巻 2014年6月～8月、下巻 9月～10月

以上

資料タイトル	「2014 ディスプレイ関連市場の現状と将来展望 上巻、下巻」
体裁	A4判 上巻 343頁、下巻 287頁
価格	各120,000円+税 CD-ROM付価格 130,000円+税
上下巻セット価格	CD-ROM版セット: 250,000円+税
調査・編集	株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第一研究開発部門 TEL:03-3664-5839 FAX:03-3661-1414
発行所	株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL:03-3664-5839(代) FAX:03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="http://www.fcr.co.jp/">http://www.fcr.co.jp/</a>